

共愛学園前橋国際大学

平成 28 年度
大学改革推進事業
(大学教育再生加速プログラム)
実績報告書

(暫定版)

平成 29 年 3 月

共愛学園前橋国際大学の「大学教育再生加速プログラム」(AP)

共愛学園前橋国際大学は「学生中心主義」と「地域との共生」を行動指針に掲げ、既にアクティブ・ラーニング (AL) を用いた授業に全専任教員が主体的に取り組んできました。また、教育環境においては、大学全域に無線 LAN を完備し、全学生に小型携帯端末を持たせるユビキタスキャンパスを構築したり、全国に先駆けて AL 専用に設計された学舎 KYOAI COMMONS を建設したりするなど、学生主体の学修に注力してきました。AP ではこの先進的な教育をさらに充実・発展させて学修質保証システムを構築し、自律的学修者の育成とエビデンスに基づく検証・改善を行います。

以下、AP の事業計画および平成 27 年度に実施した取組について報告します。

<目次>

I. AP 事業計画

II. 学修質保証システム基盤整備

- ・ライティングピアチューター制度の運用と学修支援相談に関連する図書館員等の研修・フォローアップの実施
- ・本事業に係る印刷物等の作成・配布、その他広報活動

III. 学修質保証システムの構築

III-1 学修の達成目標の明示

- ・学生の学修状況把握のための外部評価の実施
- ・学修成果指標の妥当性、適切性の検討に向けた調査・研究の推進

III-2 アクティブ・ラーニングの質保証

- ・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標等の開発
- ・AL スキルアップ F D 研修会の開催

III-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実

- ・学修行動調査の実施
- ・KCG (ポートフォリオ) を活用した学修成果の蓄積とリフレクションおよび管理スタッフの配置
- ・SD/FD 研修の実施

III-4 学修成果達成度による教育改善

- ・ステークホルダー (卒業生・主な就職先) 調査の実施
- ・他大学への視察、各種セミナーへの参加
- ・自己点検の実施 評価委員会実施

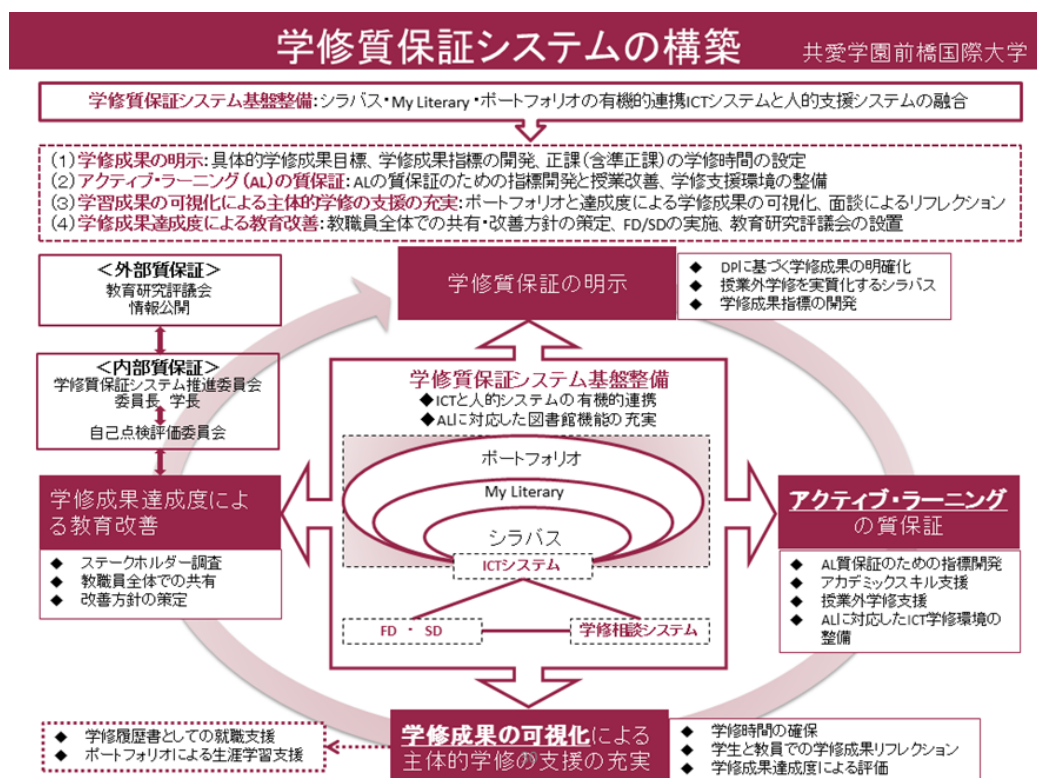
I. AP 取組みの事業計画

平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、AL の質保証と学修成果の可視化に取り組むことで、学生が自ら学び得た知を体系化し構築することを支援するとともに、教育の質保証の向上をめざすものである。

よって、本事業では、「学修質保証システムの基盤整備」を中心に据え、①学修成果の明示、②AL の質保証、③学修成果の可視化による主体的学修支援の充実、④学修成果達成度による教育改善を連続して展開し、「学修の質保証システム」を構築する。

これにより、今後ますます増加が予測される海外の大学や地域社会をキャンパスとする学びに対する質保証が可能となる。同時に、学修成果の可視化によって学修の質保証が進み、自律的学修者の実質的な育成が期待される。具体的には、学修質保証システムの一部を構成するシラバスを中心とした ICT システムの構築は、学生自身が獲得すべき知識を体系化する力を高めるとともに、エビデンスに基づいて自己の学修成果を評価できる能力を強化することが期待できる。学修質保証システムのもう一つを担う学修相談システムの構築は、教職協働で学生のニーズに合わせた学修支援を提供することで、学生を中心とした学修環境の充実が期待できる。また、AL の質の向上は、何を学んだのかの振り返り、自ら知を体系化することを可能とする批判的思考力を身につけるために不可欠であり、21 世紀を生き抜く力の獲得が期待できる。これらの取り組みの結果として、授業外学修時間の確保に役立つことが期待できる。

平成 28 年度の補助事業実施計画



1	04～03 月	・AP 推進委員会・APWG の運営 AP 推進委員会は全学的推進機構であることから、学長のリーダーシップにより学内各部署を連携させ、全学的に改革を推進するためのガバナンスを強化する。
2	04～03 月	・ICT システムの運用 シラバス、ポートフォリオ、図書館情報システムをそれぞれ稼働させる。これらを連動させた KCG の運用を、全学生を対象に本格的に開始する。
3	04～03 月	・本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他の広報活動 本事業の趣旨や取り組み内容を学生に向けて広報する。学外に向けては主に本事業のホームページから広報を進め地域・社会へ発信する。
4	04～03 月	・ライティングピアチューター制度の運用と、学修相談支援に関連する図書館員等の研修・フォローアップの実施 学生が学生に対し、レポート作成スキル等学修に関わるサポートを行うラビタデスクを運用するとともに、図書館員等で学生の授業外学修を支援する学修相談支援を継続実施する。またこれらの事業に関わる図書館員・ピアチューター等のスキルアップ研修とフォローアップ研修を実施する。
5	07 月	・学生の学修状況の把握のための外部評価の実施 汎用性能力等の状況を把握するために外部評価を実施し、学修成果指標策定などの基礎資料とする。
6	04～03 月	・学修成果指標の妥当性、適切性の検討に向けた調査・研究の推進 昨年度暫定的に策定した学修成果指標の運用を開始し、昨年度の学修行動に対する調査、授業アンケートの分析、外部評価の結果・分析をもとに妥当性と適切性を検討する。
7	04～03 月	・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標の開発 アクティブ・ラーニングの基礎研究を進め、アクティブ・ラーニングの質保証のための指標等の開発へ繋げる。
8.	08～03 月	・スキルアップFD 研修会の実施 FD を教員全員参加で実施し、アクティブ・ラーニングの質保証に対する見識を高めるとともに、本取り組みの共通理解を図る。
9	04 月	・学修行動調査の実施 学生の学修行動等の現状把握、課題の洗い出し等を目的とする学修行動調査を実施する。
10	04～03 月	・KCG（ポートフォリオ）を活用した学修成果の蓄積とリフレクション および管理スタッフの配置 学生には学修成果の蓄積と、学修に対する総括および次年度の学修目標の設定を求める。教員は担当学生のリフレクションコメントを含む学修状況を確認する。リフレクションを実施するに伴い蓄積状況など定期的に確認を行う管理スタッフを新たに採用する。
11	02 月	・SD/FD 研修の実施 学修成果の可視化および学修支援に関する情報共有、課題共有、改善点の洗い出しを目的とする SD/FD 研修を実施する。
12	04～03 月	・ステークホルダー（卒業生・主な就職先）調査の実施 ステークホルダー調査として、引き続き卒業生の情報収集を進めるとともに、卒業生の就職先を対象とした分析・調査を実施する。
13	04～03 月	・他大学への視察、各種セミナーへの参加 先進的な取り組みなど本学の事業に示唆が期待される先進の他大学への視察研修、および本事業に関連する各種セミナー等への参加を実施する。
14	04～03 月	・自己点検の実施 評価委員会実施 本事業が当初目的の達成に向け、順調に進捗しているかを含め内部による点検を実施するとともに外部による評価を実施する。

Ⅱ. 学修質保証システム基盤整備

ライティングピアチューター制度の運用と、学修相談支援に関連する図書館員等の研修・フォローアップの実施

H27年度に引き続き、17名の学生に対しチューターのスキルアップのための実践的なライティングサポート研修を外部講師の協力を得て4月後半から実施し、5月後半から体制を整え運用を開始した。9月には、情報共有と運営サイクルの検討課題について外部講師の協力を得て研修会を行った。また10月にチューターを中心とした情報共有会を実施した。この際9月に議題に上がったマニュアル校正や報告書から問題抽出し対策案を考えるなど、教職員主導の体制から学生主体で研修を運用していけるように、体制の整備を視野に入れて実施した。後期は前年度の利用者数から開始を11月からに変更し、活動期間は翌年1月まで行った。2月には後期のチューターの振り返りと学修支援ツールの改正、新規チューターの研修、新旧合同研修・顔合わせ・引継ぎなどを行い、次年度のラピタデスク運営の準備と体制を整えた。課題抽出や解決案の検討、後輩の研修補助など、本事業終了後も、学生による自律的な運用を可能にするサイクルをつくる基盤づくりを推進した。

また初年次教育担当者との授業連携を推進したことで、1年次の利用の定着がすすみ、利用者数は前後期合わせて196名になり、昨年と比較して倍増した。



ピアチューター研修(ロープレ30分想定)



ピアチューター研修(グループワーク)



学生による研修風景



相談受付風景

本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他広報活動

図書館利用促進パンフレット（1500 部）および KCG 活用促進パンフレット（3000 部）、AL の手法と効果的な事例をあつめた冊子「一人ひとりが輝ける学びのカタチ」（2000 部）を作成した。KCG 利用促進のために作成にしたパンフレットでは、具体的な記入内容例などを明記するとともに、活用によるメリットをわかりやすくまとめて示し、配布することで全学生・入学予定者への周知徹底を図った。またシンポジウム・オープンキャンパス・高校訪問等でも配布し、本学の学修成果の可視化への取り組みに対する周知を図った。「一人ひとりが輝ける学びのカタチ」は、本学の AL 授業による学修成果指標「共愛 12 の力」の向上との関係をわかりやすく解説し、AL の手法を中心とした授業紹介や受講学生のインタビューなど載せ、新入生・高校生・高校教員向けにも本学の大学教育改付を行った。

加えて図書館および KCG の広報として図書館、コモンズ等学生の集まる場所に設置して学生だけでなく来学者への紹介として配布したり、視察対応時や視察訪問時に本学資料とともに封入したりして活用した。



KCG パンフレット（観音開き）

Ⅲ. 学修質保証システムの構築

Ⅲ-1 学修の達成目標の明示

学生の学修状況把握のための外部評価の実施

7月に 学生の汎用的能力等の状況を把握するために外部評価としてPROGおよびJUESを実施した。PROGは1年生（6月）と3年生（11月）、JUESは7-8月にかけて1年生と4年生を対象に実施した（PROG受験者：1年生/247名、3年生/106名 JUES回答者：1年生/158名、2年生/141名、3年生/114名、4年生/143名）。

PROGを実施したことで、学生は自分のジェネリックスキルについて知ることができ、自己分析につながった。外部評価から得られた調査データは授業改善のための根拠として蓄積され今後の授業やカリキュラム改善に反映される。

学修成果指標の妥当性、適切性の検討に向けた調査・研究の推進

4月に KCG を利用したリフレクションを実施し、全学年で学生による「共愛 12 の力」の自己評価をスタートさせた。またシラバス上で授業と「共愛 12 の力」との対応を明記し、「AP 授業アンケート」では、新たに「共愛 12 の力」の伸長に関する調査項目を設けた。授業と「共愛 12 の力」の関係を調べ、授業内容と「共愛 12 の力」との関係を明らかにするとともに、学修成果指標の妥当性について調査した。

Ⅲ-2 アクティブ・ラーニングの質保証

アクティブ・ラーニング質保証に関する指標等の開発

前後期の授業最終週に全授業の受講者を対象として「AP 授業アンケート」を実施した。この調査・分析によって明らかになった、各授業の授業外学修時間や、受講生が授業を通して実感した「共愛 12 の力」の伸長について教授会で報告し、全教員による情報共有を図るとともに、次年度の授業改善、授業外学修として行う課題の改善・充実に取り組むことを確認した。

また、PBL を中心とした AL の要素を多く含む地域実践系科目群に注目した調査・分析を行った結果、当該科目群履修者は非履修者よりも、PROG（ジェネリックスキル測定テスト）のスコアや自己の能力の伸長についての自己評価が良好であることが明らかになり、本学の地域連携による特徴的な授業の有効性が確認された。

AL の手法と効果的な事例をあつめた冊子「一人ひとりが輝ける学びのカタチ」を作成し(再掲)、全学生へ配布することで、本学の AL の取り組みと学修成果指標「共愛 12 の力」についての理解を促すとともに、本学以外の AP 採択校などにも冊子を送付し、本学の AL および学修成果の可視化についての取り組みの周知を図った。

アクティブ・ラーニングに関するスキルアップFDの開催

8月・2月に講師を招いて、FD研修を実施した。Ⅰ「高大接続を踏まえたアクティブ・ラーニング研修1」では目的別ALの手法と実践への応用を考え、Ⅱ「高大接続を踏まえたアクティブ・ラーニング研修2」では実際にグループでジグソー学習で、深い学びに導くALの要点や手法を学んだ。全教員の参加と職員の希望者で実施し、教員はALの手法についてより深く理解し授業への応用手段を得た。また職員は、授業で用いられる手法を知る機会となり知見を得た。

【開催概要】

「高大接続を踏まえた大学でのアクティブ・ラーニング研修Ⅰ・Ⅱ」

安齋勇樹先生（東京大学）

日時 2016年8月5日（金）10：00－12：00

2017年2月22日（水）9：30－12：00

場所 共愛学園前橋国際大学 4号館 2404.2405 教室



研修風景

Ⅲ-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実

学修行動調査の実施

授業アンケート・学修行動調査・卒業生調査の内容を検討し実施した。それにより現段階の学修の到達度のデータが収集できた。7月と1月にAP授業アンケートを実施、またJUESは11-12月の2か月間に前学年を対象に実施した。（JUES回答者：1年生/158名、2年生/141名、3年生/114名、4年生/143名）

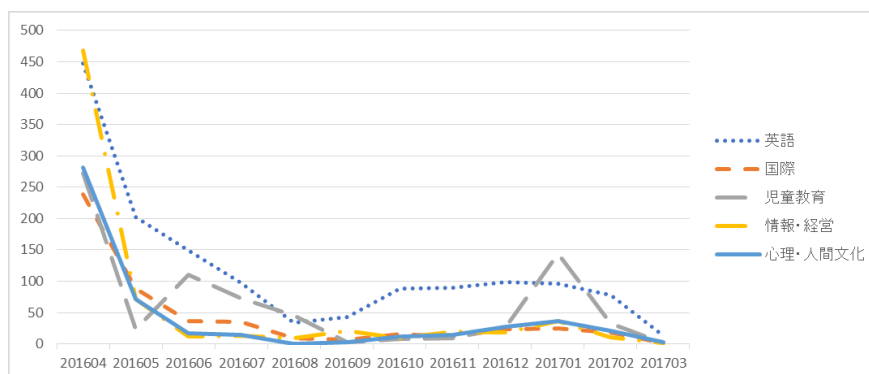
収集したデータから、来年度以降学生に提供する学修支援の傾向を検討することが可能となる。また今後の継続的な調査によってデータを集積することで教育改善のための有効な資料となり、さらに調査結果を授業に反映することで間接的に学生へ質の高い授業を提供できるようになる。

KCG (Kyoai Career Gate : ポートフォリオ) を活用した学修成果の蓄積とリフレクション

KCG は昨年度に引き続き全学生を対象として運用を実施した。リフレクションは、「共愛 12 の力」(学修成果指標) の説明が必要であることと、後期の成績発表後が望ましいため、全学生を対象として4月のオリエンテーション期間に実施した。新入生にはKCGのログインと利用方法の説明、「共愛 12 の力」と「共愛コモンルーブリック」の説明、および1年間の目標を決定してKCGに書き込む時間を設けた。2年生以上の学年は、前年度を振り返り、KCG上で「共愛コモンルーブリック」による自己評価と1年間の目標の設定を行う時間を設けた。記入した内容は担当教員がチェックすると同時に、KCGの利用状況について管理スタッフが全学生を確認し、結果を教授会で定期的に報告することで、KCGの利用状況について全教員で共有した。

合計 / ログイン コース	学年	1	2	3	4	総計
英語		594	337	330	175	1436
国際		188	160	112	52	512
児童教育		315	199	133	100	747
情報・経営		181	197	150	162	690
心理・人間文化		111	136	133	120	500
総計		1389	1029	858	609	3885

アクセス数



月別アクセス数

SD/FD 研修の実施

スキルアップFD「高大接続を踏まえたアクティブラーニング研修1・2」を8月と2月に実施した。また2月にキャリア教育の視点から本学のカリキュラム、教育活動に関するFD/SDを実施した。KCGとショーケースの活用が想定されるシーンでの効果的な活用について情報共有を行った。

教職員あわせて研修を実施し、KCGとショーケースについて詳細な活用方法を共有したことで、教職員の学生への就職活動支援の質が向上し結果として学生も有意義な就職活動を行うことが期待できる。



松本大学調印式

Ⅲ-4 学修成果達成度による教育改善

ステークホルダー調査の実施

3 月に過去 10 年分の卒業生の就職先約 700 社の人事部担当者に直接訪問・電話等で接触し、卒業生の在籍状況、卒業生の社内での活躍等につき、アンケートを依頼・実施した。

卒業生調査をすることにより、卒業後の進路先である就職先から教育改善の課題を得ることができる。就職先の企業等から学生に求める能力等を伸長させるため、授業改善し反映することで学生の能力の向上も期待できる。

他大学への視察、各種セミナーへの参加

7 月にお茶の水大学の FD/SD 研修に参加した。10 月には日本教育心理学会で AL の質保証に関するポスター発表を行った。11 月は図書館総合展で、学修支援の講座を聴講した。2 月に関西大学に AP の合同フォーラムに参加した。またレファレンス共同ベースのセミナーとライティング支援のシンポジウムに参加し図書館での支援について学んだ。加えて同じく 2 月に北陸大学へ高大接続についてのヒアリングと視察を行った。さらに統計セミナーに参加し統計解析の多様な活用方法について学び、調査をより円滑に行うスキルを得た。

- ・お茶の水大学 FD/SD (2016/7/25)
- ・日本教育心理学会 (2016/10/7-10)
- ・図書館総合展 (2016/11/8)
- ・関西大学 AP (2017/2/9)
- ・北陸大学 (2017/2/10)
- ・レファレンス協同データベース事業フォーラム (2017/2/17)
- ・関西大学ライティング支援シンポジウム (2017/2/18)
- ・統計セミナー (2017/2/26-28)

自己点検の実施

内部自己点検評価委員会へ AP の取組の報告を行った。外部評価委員会にむけて検討課題を含め情報整理を行った。

5 月に外部評価委員会を実施した。評価委員 3 名を招聘し、本学の H26 年度と H27 年度 AP の活動について報告し、それに対する意見と評価を受けた。